

日本自動車用フィルム施工店会
青木克真会長に聞く

透明断熱市場へ期待

フィルム本来の機能をPR



要だ。そこで日本自動車用フィルム施工店会（JCAA）の青木克真会長に自動車フィルムの現状を聞いた。

「これまで自動車フィルムは目隠しやファッショ性が目的で求められてきた。時代の流れとともにプライバシーガラスな

どVカットや飛散防止などの機能と付加価値が一層強くも求められるようになった。また透過率や張る場所の安全基準をクリアした上で確かな技術で施工することが大切だ。

ここにきて注目を集め出し、フィルム施工店としては新製品の売り方が楽しみとなってきた。例えば透明断熱フィルム（可視光透過率七〇%をクリ

アしておれば）だと、従来は禁止されている運転席、助手席やフロントガラスにまで張ることができ、真夏には効果が一段と増すのは必至だ。さら

に最近では着色フィルムでも、熱遮断機能をプラスした着色断熱フィルムが発売されており、これらの製品をユーザーに提案すればまだまだ自動車フィルムの市場は伸びると思う。従って透明フィルムの世界はこれからで、無限だと思う。カーフィルムというと、どうしてもRV車などの着色フィルムしか考えられない。だが、バス、タクシーなどいろいろな意味で透明断熱フィルムの市場は大きい。フィルムの流れを着色フィルムから透明断熱あるいは着色断熱とバラエティーに富んだ形で伸ばしていくことができるのではないかと思う。そういう市場とは別に業界の技能レベルの向上という意味から技能認定試験をもう一歩前へ進めていかなければと思っ

ている」と前向きな意見を持つており、特に透明断熱フィルムへの期待は大きい。

現在市場は一般景気の影響も受けて、自動車販売台数の落ち込みも非常

にもPRすることも重

もあり、フィルムにはU

も